

環境 NEWS (第18回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

日本の漁業生産量は減少傾向にあるようです。過酷な仕事である漁師さん自体が減少しているのはもちろんのことですが、世界的な水産資源の減少が大きな要因のようです。つまりは「元が取れない仕事」になったということなのでしょう。そんななか、量を獲るのではなく、高品質で高価格なサカナを獲る手法で利益の出る漁業へと工夫をしている漁師さんもいらっしゃいます。

また、遠方の海に獲りに行くのではなく、養殖という手法に変更されている業態もあります。代表的なブリやマダイからクルマエビなどなど。最近ではウナギの完全養殖も視野に入ってきたようですね。

もちろん、サカナが住みにくい環境になったことも大きな要因ではあると思います。限りある資源は大切に使わなければなりませんし、必要以上に獲らないことも重要なことだと思います。

サカナが獲れなくなったことを一番に感じている多くの人達は、我々釣り人なのかもしれません。更に、次の手を考えなければならない段階に入ったようです。

1960年から1990年にかけて、世界の漁獲量は急激に増加しました(赤い矢印)。しかし、1990年以降、その増加は頭打ちになっています(青い矢印)。なぜでしょう？

魚やエビ、貝などの海洋資源は生き物です。生き物ですから、卵を産み、繁殖することで、その数を増やしたり、保ったりしています。しかし、魚やエビ、貝などの海の生き物を人間がとりすぎてしまうと、海の生き物は繁殖するチャンスを失って、個体数が減ってしまいます。そうすると、人間がいくらがんばって漁をしても、網にかかる生き物は減っていくのです。現在では、絶滅が心配されるような魚介類まで出てくるようになってしまいました。

海洋資源は尽きることはない？

